

[illegible]

第三回「歴史講座 in 清川」開催！ テーマは「出羽三山と松尾芭蕉」

九月二十七日(水)、清川歴史公園・清川関所においては文化記念館の学芸員・富樫あずさ氏をお迎えして、第三回 歴史講座 in 清川を開催しました。



いでは文化記念館

学芸員・富樫あずさ氏

今回の講座では「出羽三山と松尾芭蕉」羽黒俳人と「おくのほそ道」と題して、松尾芭蕉と清川や出羽三山(羽黒山、月山、湯殿山)の参拝について「おくのほそ道」や「曾良旅日記」

さらに書簡などの記述から解説していただきました。

熱心にメモを取っておられる方も多く、質疑応答の時間には、多くの質問が寄せられました。

参加者からは「大変分かりやすかったです。」「芭蕉がおくのほそ道の旅の途中、庄内で交流した人々から、俳句が広まったといったと思いました。」といった声が聞かれました。

また講演終了後には、きよかわ観光ガイドの会による「まち歩き」を実施。清川関所周辺の「芭蕉上陸の地」から御殿林、最上川が見える場所などに参加者をご案内しました。

なお企画展示部会では、来年度も企画展示内容に沿った「歴史講座 in 清川」を開催すべく、現在計画を進めております。



食堂販売部会

観光案内部会

管理人

【合同研修会】

～芭蕉記念館と山寺～

十月十六日(月)に食堂販売部会と観光案内部会、清川関所管理人合同の視察研修会を開催しました。

午前中は「山寺芭蕉記念館」を訪問しました。芭蕉に関する文書や映像などを通して、「おくのほそ道」の様子など学ぶことができました。

また昼食は山寺参道沿いにある「ふもとや」でいただきました。

午後はガイドさんに案内いただき、根本中堂から芭蕉句碑、念仏堂、山門、蛙岩、本坊などを見て回りました。

その後、天童市にある「御苦楽園」を訪問。ガイドさんから庭園に関する数々のエピソードを伺いながら見学しました。

【参加者募集】

十二月十三日(水)開催

清川まちづくりセンター

「ざ・歴史」

庄内の食文化

講師 鶴岡市郷土資料館

館長補佐 今野章氏

清川まちづくりセンターと共催で歴史講座「ざ・歴史」を十一月から開催しています。現在十二月十三日(水)に開催する講座の参加者を募集しています。

【会場】

清川まちづくりセンター

【講師】

鶴岡市郷土資料館

今野章氏

【演題】

庄内の食文化

【スケジュール】>

受付…午後一時から

講座…午後一時半から

終了…午後二時四十五分

9月15日（金）津軽三味線ライブ in 清川関所 開催！



ライブ中の小野越郎さん

九月十五日（金）、清川歴史公園・清川関所に宮城県白石市在住の津軽三味線演奏家の小野越郎さんをお迎えして「津軽三味線ライブ in 清川関所」を開催しました。

ライブが始まると、天井が高い川口番所の館内に三味線の音色とお客様の手拍子がひとつになって響き渡りました。

終演を迎えると、多くのお客様が感激されていることが鳴り止まない拍手とアンコールから伝わりました。



事前に販売したチケットは当日を迎えるまでに完売した為、急遽席を増やして対応しました。また開演前にはモンズキッチンさんの台湾料理キッチンカーに出店いただき、館内では角蔵珈琲さんにワンドリンクを提供していただきました

歴史の里のおもてなし ガイドの会より

木々の葉も落ち、ひとところ新間を賑わしていた熊出没の記事も減って、山眠る季節です。

今年の清川観光ガイドのまち歩きもシーズンを終え、昨年よりずいぶん多くのお客様をご案内することができました。

猛暑の中で、特に小学・中学・高校生の方々が多く来てくださったのが印象的でした。清河神社では「文武両道の神」として清河八郎先生のことをお話しして、お詣りいただいたこともありました。また御殿林や官軍の墓などでは、十七・十八歳の若者が戊辰戦争で戦ったことなどから、今、世界で争いの多いことなど、平和について考える機会でもあったと思います。これからは官軍が陣を敷いた「腹巻岩」やお年寄りの話のしほしに出てくる「さるばら」など私たちがまだ行ったことのない場所にも行って、お客様に紹介できれば：などと考えています。



腹巻岩と立谷沢川

清川は老若男女問わず、皆さんで楽しめる「まちあるき」を目指したいものです。

清川歴史公園

冬季休業について

清川歴史公園・清川関所は十二月一日から二月二十九日まで冬季休業となります。

なお休業中の問合せ等については、立川総合支所・立川地域振興係（電話：0234・56・2217）まで。



「父への手紙」



①

文久三年二月、八郎は浪士組を率いて京都に上り、朝廷から攘夷決行の勅諭(命令)をもらった。三月二十八日に江戸へ戻った八郎は、四月十五日をもって横浜で攘夷決行を計画。この手紙はその三日前、寸暇を惜しんで山岡邸で記したもので、翌十三日、八郎は凶刃に倒れた。

②



維新の魁 清河八郎を大河ドラマに！

「清河八郎」を主人公とする大河ドラマの実現を目指し、平成三〇年五月に「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会を設立しました。現在、清河八郎を多くの人に知ってもらいたい！という願いのもと、周知活動を行っています。

【暗殺される前日山岡邸で記す】
長い間お会いしていませんが、ますますご壮健のことと思います。先月二十八日無事江戸に帰着、さっそく手紙を書こうと思ったのですが、多忙を極めたため、弟(熊三郎)から手紙があったはずですが、私は変わりなく、いたって元気でござ安心ください。(浪士組)京都までの行き帰りともにもうまくいき、古今未曾有の勢いです。

④

我々への疑念はわけもなく氷解し、まずもって無事に江戸へ帰ってきました。ともあれ不本意なことも多いもので、私の名声がとて高まり立場も重きをおくようになり当惑しているところですが、まあ高名になることは悪いことではありません。庄内藩など国元では、いまだに私のことをあれこれ言っているようですが、私自身のいたらないところでしようか。

⑥

維新の
回天
偉業
之魁

⑧

將軍家は今、京都におり、一昨日、水戸公が攘夷のため江戸に戻ってきましたが、ここにいたってはばかばかしくなく、現在は浪士組のみが評判を呼び、私などは大変な噂にのぼっております。愚弟も大変な勢いで、様々な人に重用されています。兄弟ともに身命を国家に捧げれば、先祖の美はもろろ、国家の誉れになります。次号へづく：「清河八郎グラフィティ」より

⑨



③

京都滞在中は国事にいそしみ、手紙に書き尽くせないほど感慨無量なものがあります。浪士組に関してはよいことも悪いこともすべて私と山岡(鉄太郎)の責任です。関西の志士たちは我々が朝廷から直接命令を受けたことを知らないため、議論が大沸騰し、私は何度も命を狙われるなど危険にさらされましたが、もとより公明正大な気持ちで事にあたっている為

⑤

時が経てばいずれすべてが明白になるはずですが、もともと身を国家のためになげうつ覚悟ですからそのような些末なことは心配しておりません。実に数年来、寝食を忘れ国家のために尽くしてきていますが、時勢の必然、「正義」はなかなか徹することのできないもので困ったものですが、ついに時節到来、遠からず戦争になるでしょう。

⑦

「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会
Instagram はじめました★



@KIYO08KYOGIKAI